



施工過程もしっかりと記録

「住宅性能評価」は、第三者機関が設計時と工事施工・完成時の2段階にわたって行われるので、手抜き工事ができなくなりやすいですね。不良業者にとっては痛手だと思えます。申請などの手間も相当かかると聞きました。良心的で顧客第一の姿勢を持つ会社、技術に自信がある会社なら、「住宅性能評価」について誠意のある説明や対応してくれるはず。逆に「住宅性能表示制度」は必要ない、経費

制度をうまく使えば ハウスメーカーの姿勢がわかる。

ポイント!
2種類の「住宅性能評価」のうち、「設計住宅性能評価」は単独で取得できますが、「建設住宅性能評価」は、設計住宅性能評価がなければ取得できません。両方取得したときのメリットとしては先にも述べられていますが、欠陥問題など住宅に関する紛争が起きたとき、各地の弁護士会からなる指定住宅紛争処理機関に紛争の処理を依頼することができます。裁判よりも円滑で迅速な処理が1万円で望めるならばお得なのではないでしょうか。この場合の紛争とは、欠陥住宅の問題、評価書の内容だけでなく、請負契約、売買契約に関する紛争をいいます。



Interview 「住宅性能評価」は2種類受ける。
それが我家にとっては絶対条件。

M様ご夫妻

「住宅性能評価」のメリットはまだあって、「フラット35」、地震保険料、「住宅かし担保責任保険」の優遇が受けられることも魅力でした。家が完成するまでは、家について勉強して、週末は家具や資材を見に行ったり、マンションの売却や費用の計算や、もうやることがいっぱいで大変だったけれど楽しかったです。玄関を入れてすぐリビングという間取りは驚かれる方も多いですが、オープンな感じが気に入っています。床暖房だけでも暖かいし、静かだし、子供の友だちもたくさん遊びにくるし。白いレンガの

これが、今できるハウスのすべて。 納得、満足の理想の家。

ポイント!
「住宅性能評価」では3階建て以下の住宅の場合、原則として4回、現場での検査があります。施工段階での検査で設計図書通りに建てられているかどうかを確認することになります。

がかかるだけですと洩られたら、そんなところには任せられないでしょう。「住宅性能評価」に対する回答は、頼りになる会社なのかどうなのかの判断材料になると思います。

紛争発生時 第三者機関が仲裁に入る安心感。

だいたい1年くらいでしょうか、家を建てるうえで必要な情報は調べまくり、かなり勉強しました。その間、「長期優良住宅」や「住宅性能評価」に出会い、「住宅性能評価」は設計と建設の2種類があることを知りました。そして自分が建てる家には、これらを必ず取得しようと思ったのです。「長期優良住宅」と「設計住宅性能評価」はK社との契約時に含まれていました。が「建設住宅性能評価」はなかったため、自費でお願いすることにしました。

私が高齢で「設計住宅性能評価」と「建設住宅性能評価」の両方取得することにこだわったのか。それは2つの評価を取っていただければ、完成後に欠陥が見つかったら紛争が起ころうと、わずかな金額で紛争処理機関への申し立てができるからです。理想の家を作ってくれるのはK社だと信じて託しているのですから、当然信用はしています。しかし、もし何かあったときが心配。家は高価な買い物ですから、念には念を入れて、もしものことまで考えて保険をかけておきたかったです。

外観も機能も内装も、好みや希望を存分に反映した家ができました。

ポイント!

玄関を入れてすぐリビングという間取りでも暖かいのは、断熱性能に優れているからです。温熱環境は最高の等級4でした。



SSC(スーパー遮熱・断熱シート)

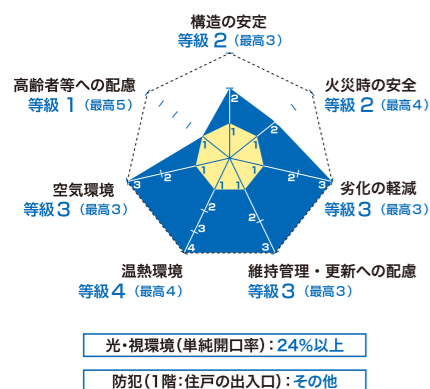


発泡ウレタン吹き付け

工事施工者 K社より

弊社では基本的に「長期優良住宅」と「設計住宅性能評価」を実施しています。「建設住宅性能評価」はお客様に費用を負担していただく必要がありますが、しっかりと施工されている事の確認が行われるということは大切なことだと思います。価格、耐震、断熱について重視されていたほか、ご夫婦とも細かい部分にこだわりがあったので、納得いただける施工になっているか最後まで心配でした。快適に暮らす方が増えて嬉しく思います。

住宅性能評価レーダーチャート



建設住宅性能評価書



設計住宅性能評価書



長期優良住宅認定通知書

No.03 神奈川県 M様邸

家族構成 夫婦+子供2人

